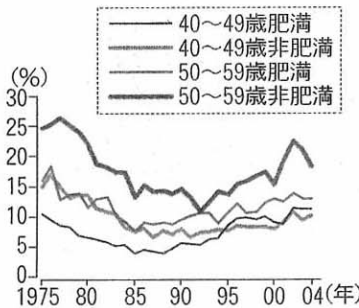


# 労働環境悪化でストレス？

## 高血圧 90年代半ばから増加

大阪府立健康科学センター 府内の40、50代7万人調査

高血圧者の割合の推移



その結果、高血圧の割合は、90年代初めごろまでは減少傾向にあったが、04年

企業で働く労働者のうち、心臓病や脳卒中につながる高血圧の割合が、90年代半ばから増加傾向に転じていることが、大阪府立健康科学センターの北村明彦・健康開発部長（予防医学）の調査で分かった。特に、肥満を伴わないBMI（体重キログラムの2乗）が25未満の50代の高血圧の割合は04年で約2割に達し、12年前に比べ7割も高かった。労働環境の悪化などで、ストレスが増加していることが原因とみられるという。

調査は、商社や金融など大阪府内の7企業で、75〜04年の30年間に同センターの定期健康診断を受けた40代と50代の男性社員延べ6万9607人を対象に実施した。

で40代が21%（92年比9割増）、50代が31%（同10割増）を占めた。このうち肥満を伴う割合は、04年で40代が11%（同6割増）、50代が13%（同3割増）。肥満を伴わない割合は、04年で40代が10%（同3割増）、50代が18%（同7割増）だった。

動脈硬化と関係の深い総コレステロールの平均値も、40代、50代共に増加する傾向にあった。

北村部長は「肥満でない人でも高血圧の割合が増えている。リストラなど労働環境の悪化に伴い、従業員の精神的なストレスが増えていることが関係しているのではないか」と話している。

【河内敏康】